

日米韓における大学生の Facebook 利用動向に関する研究

高橋 一哉[†] 上野 亮[†] 飯島 泰裕[†]青山学院大学大学院 社会情報学研究科[‡]

1. はじめに

近年、我が国ではソーシャル・ネットワーク・サービス（以下 SNS）において、不用意な書き込みをした大学生の個人情報、インターネット上で公開されるなどのトラブルが、見受けられるようになった。このような個人情報を公開する Facebook や Twitter 等の SNS に関わる問題は頻発しており、従来のプライバシーの概念を考え直す必要があるとも指摘されている。[1]

そこで、本研究では日本、米国、韓国の大学生の Facebook における各自のプライバシーに関わる情報公開の設定や利用状況を比較し、国ごとの特徴を調査した。その結果、米国の学生の 71.1%が、プロフィール写真を限定的に公開していること、米国の学生の 66.4%は、発言や写真を投稿する際に限定的に公開していることなどが明らかになった。

2. 調査方法

(1) 調査対象

世界大学ランキング(QS World University Rankings)における各国上位 10 大学から、各 3 校（日本：東京工業大学、北海道大学、筑波大学、米国：University of Chicago, California Institute of Technology, University of Michigan, 韓国：Seoul National University, Hanyang University, Sogang University）を取り上げ、その学生の Facebook ページをランダム抽出した。また、それらの大学に在籍する 690 名（男子学生：269 名、女子学生：421 名）の大学生を調査対象とした。またその内訳は、日本の大学生が 242 名（男子学生：68 名、女子学生：174 名）、米国は 149 名（男子学生：41 名、女子学生：108 名）、韓国は 299 名（男子学生：160 名、女子学生：139 名）である。

(2) 調査方法

上記の方法で選出した大学に在籍する学部生

を Facebook において検索し抽出した。そして、これらの学生のプロフィール写真、Wall への書き込みの情報公開設定や利用状況等を比較した。

3. 情報公開設定

(1) プロフィール写真の公開設定

自らのプロフィール写真を誰もが見る事ができる状態に設定することを「公開設定」、友人や友人の友人など、特定の人物のみが見ることができる状態に設定することを「限定公開設定」、またデフォルト設定のまま、もしくは芸能人や風景写真等を使用し本人の写真が一切使用されていない状態に設定することを「非公開設定」と定義し、各国の学生のプロフィール写真にたいする情報公開設定を比較した。

日本の学生におけるプロフィール写真の情報公開設定（公開：62.4%、限定公開：20.7%、非公開：16.9%）と韓国の学生における情報公開設定（公開：59.5%、限定公開：26.4%、非公開：14.0%）のそれぞれの割合は、比較的類似していたのに対し、米国の学生の情報公開設定（公開：17.4%、限定公開：71.1%、非公開：12.8%）は大きく異なり、米国の学生は自らのプロフィール写真を限定的に公開していることがわかった。（図 1）

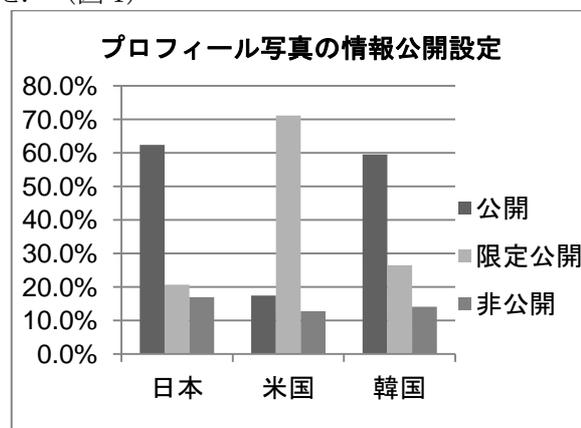


図 1 プロフィール写真の情報公開設定

(2) プロフィール写真における個人識別

また、公開もしくは限定公開されている各自の写真のうち、個人を識別可能な割合について

Research on trends in university students' uses on Facebook in South Korea and the United States, Japan

[†] Kazuya Takahashi, Ryo Ueno, Yasuhiro Iijima

[‡] Aoyama Gakuin University, Graduate School of Social Informatics

調査した。個人の識別に必要な条件は、個人の①顔のパーツ（両目、鼻、口）が揃っている、②それらが確認できる十分な距離で写真が撮られている、③複数人で写真に写っている場合にどの人物が本人か特定出来る、とし、上記3つの条件を満たしている写真を「識別可能」、一つでも満たしていないものについては「識別困難」とした。

これらを踏まえ調査した結果、日本や韓国では59.8%、65.6%の公開された写真が「識別可能」であったのに対し、米国において「識別可能」な写真は51.7%と最も少なく、また「識別困難」なプロフィール写真の割合も65.6%と多いことがわかった。（図2）

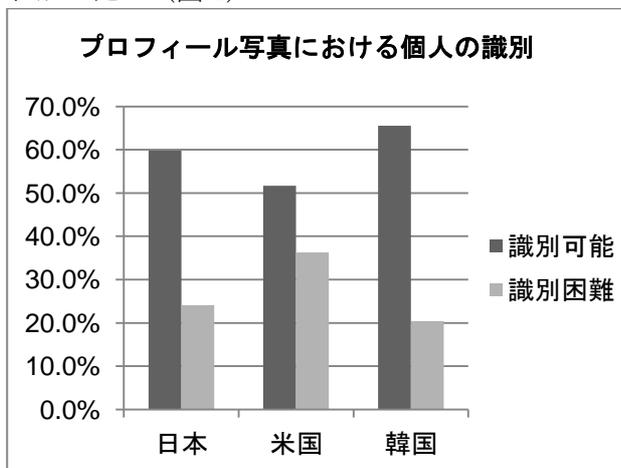


図2 プロフィール写真における個人の識別

(3) 投稿における公開設定

プロフィール写真の公開設定同様、発言や写真等を投稿する際の情報公開設定を調査した。日本においては「限定公開設定」をしている学生が52.5%と、最も多かった。また韓国では「公開設定」のまま情報を投稿する学生が、56.2%と最も多かった。その一方で、米国では最も多い66.4%の学生が、写真や発言を限定公開設定していることがわかった。（図3）

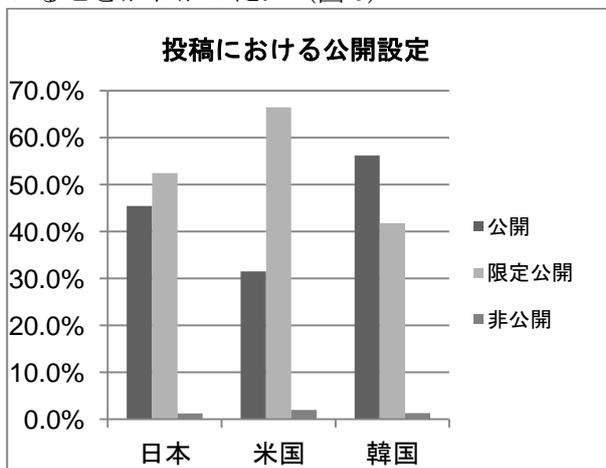


図3 投稿における公開設定

4. 利用状況

日米韓の大学生の Facebook における、それぞれの友人数を比較した。友人とは、Facebook 上における設定を指し、友人となることで各々の情報を自動的に知ることや限定的な情報を閲覧することが可能になる。

日本の大学生の平均友人数は173.7人、韓国は252.1人、米国は562.2人となり、米国の大学生は、最も多くのユーザーと友人になっていることが明らかになった。（図4）これは、Facebook は米国発の SNS であり日韓に比べ比較的長い時間 Facebook を利用してきた学生が、米国に多いことが一因として考えられる。

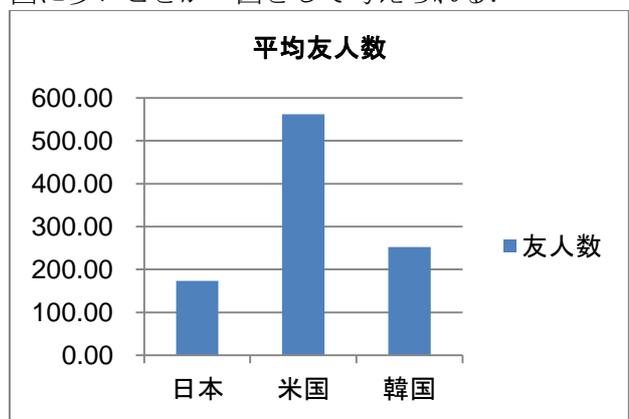


図4 平均友人数

5. おわりに

本論文によって日本、米国、韓国の大学生の Facebook 利用における違いが、明らかになった。①米国では、多くの大学生が自らのプロフィール写真、発言等の投稿を、限定して公開していることがわかった。②一方で米国に比べ、日本、韓国の学生の多くが、自らのプロフィール写真や発言等の投稿を、誰もが見られる公開設定にしていることがわかった。

今後の研究課題としては、①情報公開設定を積極的に使用しているユーザー、消極的なユーザーにおける Facebook 利用動向の分析、②ユーザーの持つプライバシー指向性が与える、情報公開設定や利用動向への影響の分析がある。

6. 参考文献

[1]D. J. ソロブ「プライバシーに無分別な若者」日経サイエンス, pp. 88-94, 2008.
 [2]Toshikazu Munemasa, Mizuho Iwaihara., : Trend Analysis and Recommendation of Users' Privacy Settings on Social Networking Service, SocInfo 2011, LNCS 6984, pp. 184-197, 2011.